

「音更町の人口の推移に関する資料」

《総合計画に関する参考資料》

【追加資料】

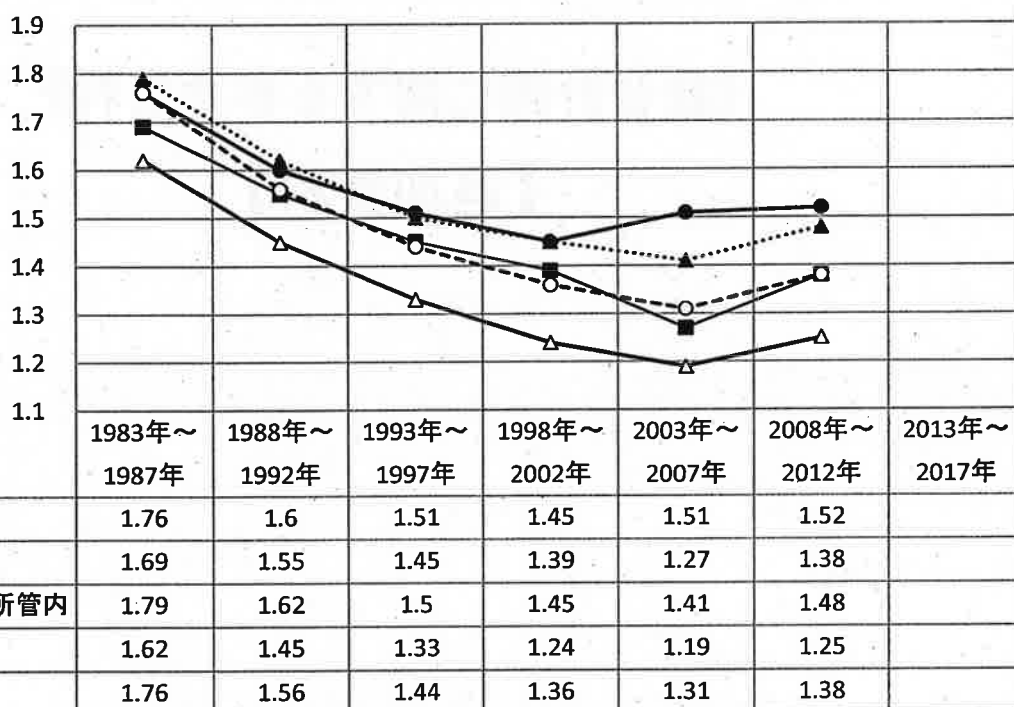
音 更 町

令和2年1月作成

合計特殊出生率(ベイズ推定値)の推移と道内・全国の比較(5年間の平均)

	1983年～ 1987年	1988年～ 1992年	1993年～ 1997年	1998年～ 2002年	2003年～ 2007年	2008年～ 2012年	2013年～ 2017年
音更町	1.76	1.60	1.51	1.45	1.51	1.52	令和2年3月 公表予定
帯広市	1.69	1.55	1.45	1.39	1.27	1.38	
帯広保健所管内	1.79	1.62	1.5	1.45	1.41	1.48	
北海道	1.62	1.45	1.33	1.24	1.19	1.25	
全国	1.76	1.56	1.44	1.36	1.31	1.38	

合計特殊出生率(ベイズ推定値)の推移と道内・全国の比較(5年間の平均)



※人口動態保健所・市区町村別統計(厚生労働省)

※ベイズ推定値:市町村など小地域の合計特殊出生率は、標本数(出生数や死亡数)が少ないため数値が不安定になりやすいことから、当該市町村を含むより広い地域の出生・死亡の状況を情報として活用することで、出生数や死亡数が少ない場合でもより安定した数値をとるようにする推定方法

近年人口が増加している自治体における増加要因

【道外自治体の事例】

事例 1：福岡県粕屋町

～「生活利便性の高さ、都市と自然が適度に調和した居住環境」により人口増～

- ・福岡市と隣接し、町内は計6つのJR駅が立地。買い物を中心とした生活利便性の高さや都市と自然が適度に調和した居住環境などを要因として町の人口増加率は高く、平成20年には人口4万人を突破。現在、九州地方の町村としては最も人口が多い。
- ・町民の平均年齢は約39歳と若い子育て世代が多く、日本の人口が減少局面に入ってから全国的に少子高齢化が進むなかで、同町は2.03と高い出生率（厚生労働省平成26年「人口動態保健所・市区町村別統計」）を誇る、若くて元気の良い町となっている。
- ・現在、福岡市のベッドタウンとして、住宅を中心とした開発が進められている。その中でも特に大規模なのが、JR酒殿駅南側で進められている大規模（約13.3ha）な土地区画整理事業で、300戸を超える住宅や小規模な商業施設などが開発される予定である。駅前という好立地に加え、すぐ目の前にはイオンモール福岡や駕与丁公園もある。同エリアは町の都市計画マスタープランで「新たな拠点」として位置づけられていることもあり、完成すれば町内にまとまった人口がさらに流入してくることが予想されている。

※近年5年間の人口の推移

単位：人	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
人口	45,109	45,721	46,374	47,076	47,658

資料：住民基本台帳（各年1月1日現在）（以降同様）

事例 2：山形県東根市

～「安定した雇用」、「充実した子育て・教育環境」、

「農工一体のコンパクトなまちづくり」により人口増～

- ・昭和50年代から大規模な区画整理に着手。市中心部に商業施設、文教施設、住宅等都市機能の集積を図るとともに、工業団地を整備した。この「職住近接」の取組が、県内他地域と比べて降雪量が少ないといった自然条件等もあいまって、半世紀以上社会増が続く。
- ・あわせて、「子育てするなら東根市」をコンセプトに、ハード・ソフトの両面から手厚い子育て支援策、人づくり施策に注力。「真の豊かさが実感できるまち」、「進学等で市外に出ても戻りたくなるまち」を目指している。
- ・自然災害が極めて少ないなどの自然環境を生かし、日本一の生産量を誇るさくらんぼをはじめりんご、桃、ぶどう、ラ・フランス等の果樹生産が盛んで、「果樹王国ひがしね」を宣言。農工一体のコンパクトなまちづくりによる安定した雇用と充実した子育て・教育環境が人口増加に寄与している。

※近年5年間の人口の推移

単位：人	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
人口	47,797	47,841	47,728	47,858	47,812

事例3：島根県知夫村

～離島という逆境を逆手に取り、「少人数協育」を理念に「島留学」プロジェクトの
実践により人口増～

- ・知夫村は、島根県沖にある隠岐諸島の中で最も小さな島、知夫里島にあるが、住民基本台帳（平成31年1月1日現在）において、日本人住民人口増加、社会増加（町村部）の全国1位となった（人口増加率+3.93%、社会増加率+4.42%）。
- ・1島1村の小さな自治体で急峻な地形がほとんどを占め、平地（耕地）が少なく大規模農業等に取り組むことが困難で、島外からの企業誘致も見込めず、産業は畜産・水産と観光である。
- ・人口増加の背景には、「総合戦略」における「島留学の推進、学校を核とした地域活性化の取組」による、離島という地理的に不利な条件を逆手に取った政策がある。
- ・「島留学」の成果はすぐに表れ、平成28年夏の短期体験に大阪から参加した家族は、この体験をきっかけに移住を決断。中学1年生の子どもが村立・知夫小中学校に転入した。翌年3月には、留学生たちが住む「知夫里島はぐくみ寮」が完成し、島留学が本格的に始まった。
- ・「知夫村産業振興担い手支援事業」も行い、産業振興のために担い手となる人に生活支援金を支給。起業支援制度、住宅取得のための支援制度も用意した。
- ・子育て支援は広範囲に及び、妊婦検診診察費、妊婦検診交通費、出産のための宿泊費、新生児聴覚検査費用等を支援し、0歳児から高校3年生までの医療費も無料。出産祝金は、第1、2子は50万円、第3子以上は100万円。その他、結婚祝い金制度もある。
- ・「少人数協育」を理念に掲げ、島留学という将来を見据えたプロジェクトの実践で危機を乗り越え、村を変革していこうとしている。

※近年5年間の人口の推移

単位：人	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
人口	592	592	605	614	638

【道内自治体の事例】

事例1：北海道倶知安町

～冬期間、「一時滞在する外国人」が増えることにより人口増～

- ・総務省の平成27～29年7月の住民基本台帳に基づくデータで、全国の自治体で最も人口増加に勢いのあった町。
- ・スキーリゾートとして有名で、スキーシーズンである冬場の11月～翌年3月の間、一時滞在する外国人が増えることが人口の増加の原因になっている。一時滞在の外国人は、年々増えている。
- ・毎年、11月に人口が増加し、翌4月に人口が減少するのが特徴。外国人はスキーシーズンに、インストラクターやホテルなどの宿泊施設の従業員として働いている。

※近年5年間の人口の推移

単位：人	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
人口	15,825	16,060	16,469	16,432	16,642
うち日本人	15,059	15,014	14,922	14,862	14,665
うち外国人	766	1,046	1,547	1,570	1,977

事例 2：北海道上士幌町

～「リアリティのある移住提案・移住促進」、「子育て支援」の充実により人口増～

- ・平成 28 年度に十勝管内 19 市町村の中で唯一人口が増加。
- ・ただし、平成 31 年 1 月 1 日現在には 5,000 人まで増加したが、令和元年 12 月末現在は 4,957 人に減少。
- ・早い段階から移住者を呼び込むための取り組みに切り替え、移住の相談からまちの案内、生活体験事業「ちょっと暮らし」の紹介、物件探しに定住後のフォローまでさまざまなサポートをしている。
- ・平成 17 年には役場にワンストップ窓口を設け、移住ホームページをオープンし、移住者の受け入れ体制を整えていった。NPO 上士幌コンシェルジュが設立されたのは平成 22 年。それまでは町役場や商工会、観光協会の有志が移住のためのプロモーションや体験住宅の建設を進めていたが、行政と民間それぞれの活動をひとまとめにすることで、もっと効果が上がるのではと考えた結果、町内企業の経営者たちが、移住を柱にまちを盛り上げるための NPO 法人を立ち上げた。
- ・さらに、観光案内や特産品の展示販売など、上士幌町のさまざまな情報を発信する総合案内所としてサテライトオフィス「かみしほろ情報館」が平成 28 年にオープン。移住に関する情報発信としての役割のほか、地域のコミュニティスペースも兼ねており、町民が気軽に訪れることができる場でもある。
- ・この年には上士幌町版ハローワーク「上士幌町無料職業紹介所」も開設、Web サイト「かみしほろ会社・仕事図鑑」のオープンにより、仕事先まで見据えた「リアリティのある移住提案」ができるようになってきているのも上士幌町の特徴の一つである。
- ・上士幌町がとりわけ重視しているのが子育て支援である。返礼品が充実したふるさと納税により平成 28 年度の寄附は 21 億円まで増え、その寄附金を「子育て少子化対策夢基金」として積み立てた。この予算を活用することで平成 27 年には定員 120 名の認定こども園「ほろん」を開設、翌年には完全無料化まで持ち込んだ。高校生までの医療費を全額補助、住宅購入の助成として子ども一人につき 100 万円をサポートするなど、寄附金を活用することで手厚い子育て支援もできるようになった。他にも、乳幼児だけでなく、子どもの学力向上のために無料の夏期講習や外国語活動といった教育への取り組みも充実している。

※近年 5 年間の人口の推移

単位：人	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年
人口	4,924	4,886	4,917	4,988	5,000

